共通講習 医療安全

医療事故に関するアンケート調査から分かること、できること

野中 学

東京女子医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

日本耳鼻咽喉科学会 社会医療部 医事問題委員会では、毎年全国の地方部会に依頼し医療事故に関するアンケート調査を行っている。当初は紙ベースでの管理であったが、データベース化が行われ、現在では過去のアンケート調査結果を集計しやすくなっている。

これまでの報告では、平成17年度の医療事故から紛争に至った症例は99件と過去最も多かったが、その後減少傾向が続いている。医療行為別にみると手術による医療事故が最も多く、次いで診断の遅れや見落とし、処置による医療事故が多い。鼻領域での医療事故は全体の約20～30%を占める。

鼻領域の医療事故の中においても手術に関するものが約70%を占め、内視鏡下副鼻腔手術が圧倒的に多く、次いで鼻中隔矯正術、下甲介手術の順である。内視鏡下副鼻腔手術による合併症としては、眼窩に関するものは複視と視力障害が最も多く、他に流涙、眼窩蜂窩織炎などがある。頭蓋底に関するものは髄液漏が最も多く、他に気脳症、高次脳機能障害をきたしたものなどが報告されている。手術中のガーゼ遺残による医療事故の報告も比較的多い。

この医療安全講習では、これまでのアンケート調査結果における鼻領域の医療事故を中心にまとめ、最近の傾向、解決方法、合併症と支払金など、またこれら医療事故に対してできること、を考えてみたい。

略歴

1985年3月	日本医科大学卒業
1985年6月	日本医科大学耳鼻咽喉科研修医
1987年5月	研修医終了
1991年7月	日本医科大学耳鼻咽喉科医員助手
1995年10月	日本医科大学耳鼻咽喉科講師
2007年4月	日本医科大学耳鼻咽喉科准教授
2010年7月	東京女子医科大学耳鼻咽喉科准教授
2012年7月	東京女子医科大学耳鼻咽喉科臨床教授
2018年9月	東京女子医科大学耳鼻咽喉科教授・講座主任
1992年7月～1994年7月	カナダオンタリオ州 マックマスター大学 免疫アレルギーの研究 (Postdoctoral research fellow)